

水田たより 6月号

令和2年6月1日

桑名地域農業改良普及センター 西山、馬場、大野、鷲野 (TEL: 0594-24-3642)

大豆の栽培管理

排水対策を徹底し、根粒菌の働きを良くする土づくりをしましょう！

排水対策

大豆播種は降雨の影響で、遅れてしまう傾向にあります。降雨後はできるだけ速やかな播種をこころがけましょう。

播種直後に大雨に遭うと、急激に吸水することで正常な発芽ができなくなり、**苗立が不良**になります。また、発芽～生育初期に湿害に遭うと根が弱り、後の生育に大きく影響します。

- ・**麦跡の排水溝**の再点検を行い、**雑草の繁茂や排水口のつまりなどを改善**しましょう。
- ・再設置の場合、周囲溝だけでなく、圃場内(10m間隔)にも施工し、**排水路と連結**しましょう。
- ・圃場が乾きにくいときは、浅耕(深さ5cm)を行い、乾燥を促進しましょう。

土壌改良資材の施用

麦大豆連作やWCS跡などではpH低下による大豆の収量低下の恐れがあります。

根粒菌が活動しやすい土壌pH6.0～6.5を目標に、土壌改良資材を施用しましょう。

低pH土壌における大豆の減収程度

土壌pH	pH6.0～6.5と比べた減収程度
4.6～5.0	15～20%
5.1～5.4	10～15%
5.5～5.7	5～10%
5.8～6.0	0%

土壌改良資材の効果

資材名	pH1.0上げるための必要量		効果の遅延	特徴
	灰色低地土	黒ボク土		
苦土石灰	130kg	250kg	やや遅効性	・施用後、直ちに作付けが可能 ・苦土石灰は苦土(Mg)も補給

大豆は微量元素として、カルシウム(Ca)、苦土(Mg)、ケイ酸(Si)も必要とします。これらの補給もこころがけましょう。

施肥管理

大豆の生育期間中の**窒素吸収量は25～30kg/10a**です。うち約20kgは根粒菌の窒素固定から、残り約10kgは地力窒素や施肥からの供給となるため、施肥による窒素供給は必須です。特に、根粒菌の活性が得られにくい土壌条件(湿田、低pH)では、施肥量の上限を施用しましょう。

施肥時期と施肥量

時期	肥料種類	施肥量(窒素量 kg/10a)
基肥(耕起～播種時)	大豆化成、オール14	1～2kg/10a
追肥(開花期～10日)	尿素、オール14	4～6kg/10a
基肥一発施肥(耕起～播種時)	大豆エムコート561	1.5～3kg/10a

雑草の防除

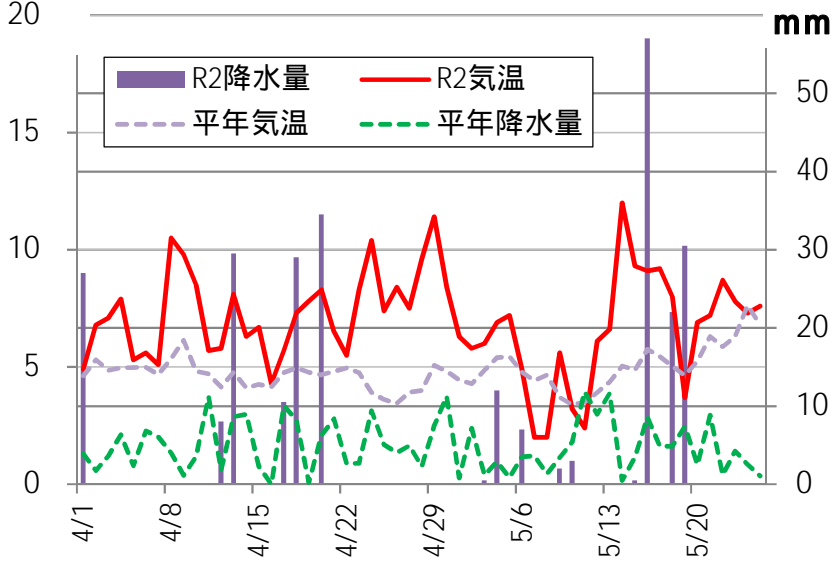
播種後1ヵ月間の雑草防除が重要です。播種直後の土壌処理剤を適切に使用しましょう。

表土の碎土率が悪いと、土壌処理剤の処理層を十分に作ることができず、除草効果は大幅に低下します。麦収穫後、一度荒く起こして土壌を乾燥させた後、播種時に作業速度を落としてしっかり耕起することで碎土性が高まり、除草効果も安定します。

(裏面へ)

気象概要

4月から5月半ばにかけては、気温・降水量は平年並み、日照時間は平年の1割増しと、稲の生育に適した状況となっています。今後も気温は高め、降水量は平年並の見通しであり、順調な生育が期待されます。



4月1日～5月25日の気象状況

積算気温	87.4
(平年比)	98%
積算降水量	273mm
(同)	102%
積算日照時間	423時間
(同)	106%

6～8月の天候見通し

気温	降水量
6月：高い	ほぼ平年並
7月：平年並か高い	ほぼ平年並
8月：高い	ほぼ平年並

(名古屋地方気象台 5月25日発表)

中干し

- ・ **1株あたり20本程度の必要な茎数が確保できたら、田面に幅1cmほどの小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度を目安に中干しをしましょう。** 根の健全な生育、過剰な分けつ抑制、倒伏軽減等の効果が期待でき、収量や品質の向上につながります(5月上旬移植で6月中旬頃に実施)。

砂壌土では根張りが浅く、乾きすぎると根が切れてしまうため、強く中干をしないようご注意ください。

中干し前後の中後期除草剤の処理



ヒレタゴボウ



ホソバヒメミソハギ

近年、“ヒレタゴボウ”、“ホソバヒメミソハギ”、“クサネム”、“アメリカセンダングサ”の発生が問題となっています。これらの雑草は、**初中期一発除草剤の効果切れる中干し前後から発生**し始めます。一度発生すると次年度も発生するうえ、周囲の圃場にも拡大する恐れがあります。

中干し前後に使用可能な除草剤の例(令和2年5月25日時点) 農薬使用時はラベルを確認しましょう

薬剤名	使用時期	ジャンボ剤
レプラス1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期。 ただし収穫60日前まで。	あり

☞ ホームページにて、過去の水田たよりや他の情報も掲載しております。[桑名普及](#)でご検索ください。